

大学の世界展開力強化事業
(令和2年度(2020年度)採択)
令和3年度(2021年度)フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

令和3年(2021年)11月30日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

令和2年度(2020年度)に採択された8件のプログラムについて、①交流プログラム(プラットフォーム構築プログラム)の内容、②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成、③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備、④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 ⑤特記すべき成果、⑥オンラインを活用した工夫・改善点の各観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績(派遣・受入学生数)等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。

事業初年度にして新型コロナウイルス感染症の影響による渡航・入国制限という大きな障壁に直面したが、渡航を伴わずとも事業達成に向けた成果を挙げられるよう努力がなされており、学生交流ではオンラインツールをはじめとした様々な交流方法を用いた活動を行っている。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化学業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と現状

①交流プログラムの内容（タイプA）

山口大学

本学にハイフレックス対応遠隔システムを導入し、「獣医国際感染症学」におけるナイロビ大学との共通講義及びグループディスカッションを行うことが可能となる体制を整備した。本学共同獣医学部は、鹿児島大学と遠隔システムを利用した共通講義や実習を実施してきた経験が豊富であり、同講義においても支障なく行うことが可能である。

広島大学

本学の平和教育オンライン教材に加えて、広島県や広島市、JICA等のオンラインコンテンツを活用した平和コースを実施し、交流計画の8名を超える13名の学生を受け入れ、本学の平和教育をグローバルに発信、展開することができた。アフリカとの連携実績のある本学教員をプログラムの担当者として配置し、日本やアフリカの教育研究ニーズ、アフリカの現状や地域ニーズを踏まえた架け橋人材の育成に必要な教育コンテンツの開発を行うことができた。

①プラットフォーム構築プログラムの内容（タイプB）

○京都大学、東京外国語大学

アフリカでの教育交流に関心を持つ国内大学間で連携するため、「第1回国内実施学会議」をオンラインで開催し、世界展開力事業に採択された10大学に加え、実務組織2機関および採択校以外の大学15校から100名弱参加し、オールジャパン体制のネットワークを構築した。

②質保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

山口大学

本学は欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の国際認証を取得しており、国際水準の獣医学教育に携わる教員が構成メンバーとなるプログラム委員会を設置した。また、外部評価委員会の委員は、人および動物の感染症の専門家、ケニアに長年在住経験のある大学教員等により構成され、充実したプログラムの実施体制を築いた。

北海道大学

本学獣医学研究院では、欧州における国際水準の認証を取得しており、その一環として、教務委員会に学生が参加している。その為、本プログラムにおいて、ステークホルダーにはJICAやOne Healthに係る他大学の教員のほか、大学院生が参画しており、学生の視点も取り入れた質保証の枠組みを構築している。

②質保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

広島大学

合同・地域別会議をオンラインで実施し、本事業目標やプログラムのポリシーについてアフリカ6大学と共有することができた。外部評価委員より、プログラム改善に関する助言を得たことで、プログラムの改善活動を行うことができた。各国大使と情報共有・意見交換することで、持続的な大学間交流についての理解を得ることができた。

長崎大学

1月に開催したオープニングセレモニーでは、本事業の開始にあたり、ケニア政府、ケニア国家科学技術イノベーション委員会から長崎大学と連携大学・機関のさらなる学術交流を期待する声が聞かれた。また、連携大学・機関とは、「PHASEプログラムとは、地球の健康実現に向けた学術交流と人材育成プログラムである」という共通認識が深められ、今後円滑かつ積極的にプログラムを実施していくことが確認された。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○秋田大学、九州大学

Learning Management SystemのGOOCUSを導入することとし、学習コンテンツの作成とプログラムの学習効果を向上させる導入方法の検討を行った。南部アフリカ諸国の大学側の学生にもプログラムの内容を理解できるようプログラム概要、カリキュラム内容を加えたパンフレットを作成した。

広島大学

事業実施部会に、アフリカとの連携実績のある教員が参画することで、アフリカの文化・社会を踏まえた学生指導実施のための体制を速やかに整備することができた。支援組織の国際室に、事業を専属で担当する職員を配置し、相手大学との連絡調整、学生受入のワンストップサービスを提供することで、オンラインでの交流を速やかに開始することができた。

長崎大学

相手国参加学生をナイロビに在る本学ケニア拠点に参集させ、オンライン交流に不可欠な安定したネットワーク環境を準備した。また、必要なPCを貸出し、遠方からの参加者には宿泊施設を提供する等、本交流プログラムに集中して参加できる環境を整えた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

広島大学

オンライン・アフリカセミナーを開催したことで、本プログラムの取り組みを広く周知できたことに加えて、質疑応答を通して、学生の学習ニーズ等を把握することができた。専用ウェブサイトを開設したことで、本事業の取組等の速やかな発信、派遣・受け入れ学生との情報共有のための情報環境を整えることができた。

長崎大学

ウェブサイトやyoutubeチャンネルの開設により、若い世代を中心に広く情報発信が可能となった。また、地域へのプレスリリースを実施したことで、本プログラムの事業内容を地域社会にも周知することができた。このプログラムは本学全学部生・全研究科生を対象としており、大学全体の国際化推進への貢献を図った。

○京都大学、東京外国語大学

受入学生向けに実施した冬季短期集中プログラム（日本語集中授業、日本文化理解・交流ツアー）には、アフリカからの留学生の他、多国籍な大学院生・学部生が参加した。日本語を母語とする学生は、日本語集中授業では会話の練習相手を務めるなど、学生同士の交流が促進され、授業の枠組みを超えた学習環境の国際化に貢献した。

特記すべき成果

宇都宮大学

2021年3月24日（水）に、本事業のキックオフシンポジウムを開催した。プログラムでは次期宇都宮大学長が開会の挨拶を行い、続いて、アフリカ開発協会会長からの祝辞の紹介があった。その後、当事業参加7大学の各大学の紹介を行い、本事業のチームリーダーが本事業のプログラムを紹介した。最後に、本事業の責任者が閉会の挨拶を行った。本シンポジウムには、合計93名の参加者があり、内訳としてジョモケニヤッタ農工大学が7名、メル科学技術大学が3名、アジスアベバ大学が2名、ダルエスサラーム大学が3名、ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構が7名、ガーナ大学が19名、宇都宮大学が38名、外部が14名であった。また、JICA筑波事務所からも1名の参加があった。このように、成功裏に本シンポジウムを実施することが出来た。本シンポジウムにより、アフリカの6大学及び宇都宮大学の学生への宣伝効果が期待され、これからの本事業の学生交流に大きく寄与すると考えられる。

山口大学

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）等の影響により、ナイロビ大学が断続的に閉校されている状況下で、オンラインによりナイロビ大学担当教員による同大学の紹介、アフリカにおいて長年にわたり活動している獣医師による特別講演などを内容としたキックオフシンポジウムを開催した。

また、日本国内においてもCOVID-19の影響により物品調達等が困難な状況下で、ナイロビ大学とのオンライン講義の実施を含めた学生交流実現のために、本学側へハイフレックス対応遠隔システムを整備するなど、2021年度における人的交流の基盤整備を行った。

特記すべき成果

北海道大学

2020年に実施した2国間の交流プログラムでは、ザンビア大学及び北海道大学間で、医学、地球環境、獣医学、農学、工学、公衆衛生、鉱山、経済学、国際感染症など、分野を問わない多様な部局より大学院生が参加した。また、ザンビア共和国からは鉱山省、保健省、環境局、日本からはJICA、在ザンビア大使館、民間企業など、保全医学に係るステークホルダーが多く出席した。

○秋田大学、九州大学

本プログラムには数度の渡航を伴う交流ユニットが用意されているが、昨今の世界的な新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して全てのユニットがオンラインによって実施可能となるようオンライン(ライブ)、オンデマンド、オンデマンド独習型の教育方式を積極的に導入する。このため、オンライン講義実施の環境整備のための備品を整え、プログラムに求められる学習管理システムの確認と、より厳密かつ透明性の高い学修管理となるようGOOCUSの導入方法の検討を行った。その後、実際にアカウント発行による導入をスタートし、学習管理システムの開発を進めた。

長崎大学

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあるなか、オンラインによるオープニングセレモニー及びプログラム日ケ運営委員会を開催し、事業実施のための組織整備を行うことができた。また、オンライン交流プログラムにおいては、交流学生数を計画の3倍に増員し、日ケの学生がペアワークに取り組んだ。その取り組みを通してプラネタリーヘルスに関する知識を共有し、また、互いの文化を知ることにより、目に見えない自己の文化的価値観を認識しグローバルな人材となるための自己意識を高めることができた。

オンラインを活用した工夫・改善点

北海道大学

・オフサイトの授業については、ザンビアと日本での時差があることからオンデマンド中心に実施することでザンビア大学と協議を行っている。その為、ストリーミングサーバーを使用した配信を行うことで調整を行った。

・北海道大学、ザンビア大学学生が利用するオンラインコンテンツとして、11のオンラインコンテンツを作成した。一部を除いたコンテンツについてはLMSに公開し、学生がアクセスできるように整えた。E-ラーニングコンテンツについては、2021年度も引き続き作成を行う。

長崎大学

オンライン教材として3DのVRキャンパスを開発し、コロナ禍におけるオンライン交流において学生が臨場感を感じ、興味を持てる内容の教材が完成した。2021年2月及び3月に、本プログラム参加見込み学生に作動テストを実施し、2021年度の本格的な導入に向けた準備を行った。また、e-Portfolioのバーチャル空間内において相互交流を目的とした「バーチャルクラスルーム360」というシステムをベースに本プログラムに特化したシステムを3月に構築し試用を開始した。本システムは教員と学生がリアルタイムで発話して相互に交流することが可能であるため、学生のより高い教育効果を得られることが今後期待できる。

東京農業大学

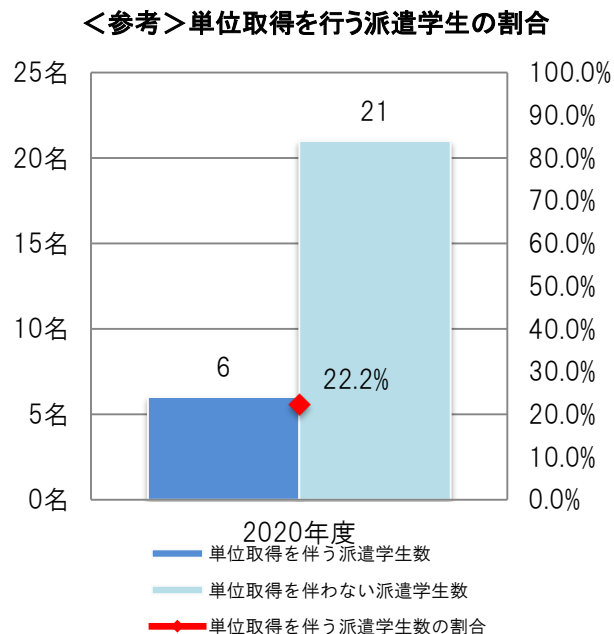
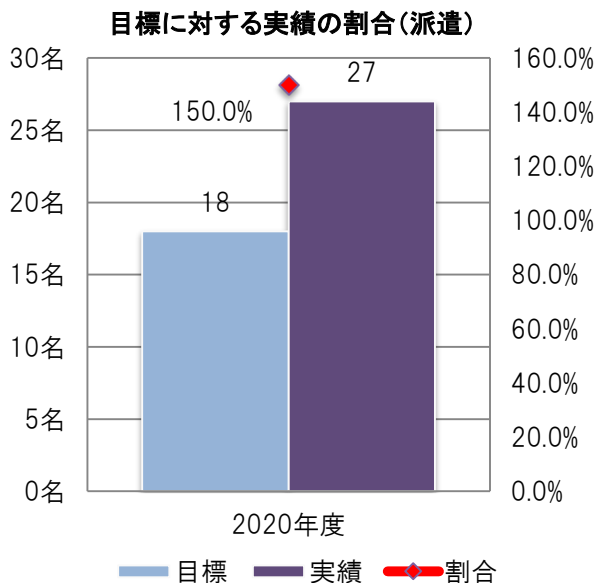
参画大学の学生を対象に事業の説明会を行った際、参加登録人数がZoomの許容人数を上回ったため、YouTubeのLive Streaming機能を併用した。実際の参加者数は許容人数範囲内だったが、インターネット環境が安定しておらずZoomに入室できなかった学生はYouTubeから視聴・コメントすることができた。また、オンライン交流プログラムについて、事前に定員を設定し、参画校のコーディネーターが参加者を選定することにより、参加人数の把握と安定したネット環境からの参加者の確保を図り、より円滑な交流会の実施を目指している。

交流学生数の実績

(1-1)交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）について

<全体の状況>

コロナ禍の渡航・入国制限下で初年度を迎えたが、オンラインを活用した派遣交流を実施し、全派遣学生数の2割が単位取得を伴う派遣留学を経験できている。また、全派遣学生の実績は目標を大きく上回る結果となり良いスタートを切った。



<進捗状況のコメント>

長崎大学

2月に実施したオンライン交流プログラムでは、ケニア側連携先および学生からの強い要望により、派遣学生数を達成目標の3倍に増員して交流を実施した。結果として、本学の様々な学部・研究科から広く履修生が集い、大学全体として部局を超えた広がりのある交流を実施することが可能となった。大学全体の取り組みとしての認知も高まり、いくつかの学部において、本交流プログラムに参加することで所属学部の科目として単位を付与する仕組みを構築することができた。

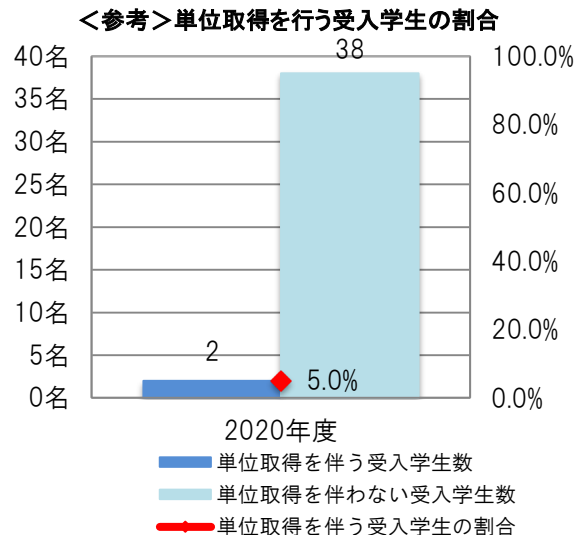
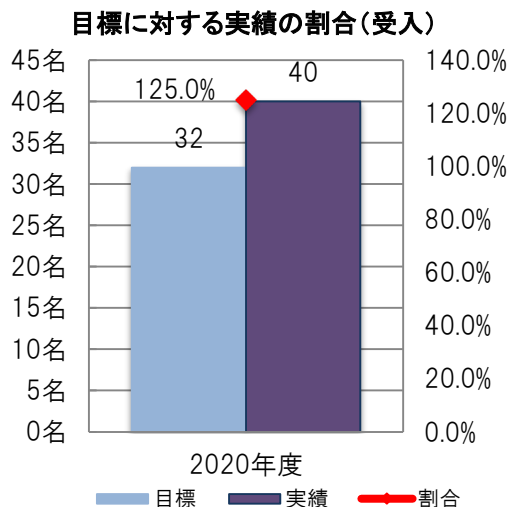
東京農業大学

3月に各参画校と行ったオンライン交流プログラムには、それぞれ80名を超える学生が参加した。定員に達し参加できなかった学生も、YouTubeでライブストリーミングを視聴し、チャット機能により積極的に参加した。実績数にはカウントされないが、2021年度もオンラインでの交流会を引き続き開催している。

(1-2)交流プログラムで留学した日本人学生数（受入学生数）について

<全体の状況>

単位取得を行う学生の割合は低水準にあるが、受入学生の実績は目標を大きく上回っている。



<進捗状況のコメント>

広島大学

参加するアフリカの学生は国、文化、宗教に加え、専門分野も異なるが、「平和」や「SDGs」といった分野を超えた世界的課題を共通テーマとして据えることで一体感が生まれた。「ヒロシマ」の歩んできた道のりを広島大学が発信することで、アフリカの学生への訴求力も高まった。アフリカ3カ国と日本の間では7時間の時差があるので、オンラインで平和コースを実施するに際しては、オンデマンド教材を使つての学習と双方向性を確保したオンラインでの交流を組み合わせ、効率性と質を確保した。

長崎大学

2月に実施したオンライン交流プログラムでは、派遣学生数を達成目標の3倍に増員し日ケの学生をペアにして活動することにより、より多くの観点からの交流を可能とした。また、本プログラム修了者には修了証を授与した。

将来的な単位付与・単位互換に向けて、第1回PHASEプログラム日ケ運営委員会において、ケニア側連携大学・機関との協議を開始した。

○京都大学、東京外国語大学

冬季短期集中プログラム（日本語集中授業[初級・中級]、日本語文化理解・交流オンラインツアー[広島・瞑想・沖縄]）を実施し、受入学生2名のほか、東京外大生が延べ40名参加し、ディスカッションを通じて各テーマへの理解と、学生との交流を深める機会とすることができた。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(令和2年度(2020年度)採択)

	大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)												
				目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数						
							(計)		30日未満		30日以上3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		30日以上3ヶ月未満
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
タイプA①	宇都宮大学	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	山口大学	アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計				0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
タイプA②	北海道大学	アフリカと日本の懸け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム～ザンビア・北大の頭脳循環成果を基盤として～	2020	4	15	375.0	0	0	0	0	0	0	0	4	15	4	15	0	0
			計	4	15	375.0	0	0	0	0	0	0	0	4	15	4	15	0	0
	○秋田大学、九州大学	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	広島大学	南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	長崎大学	プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム	2020	4	12	300.0	0	6	0	6	0	0	0	4	6	4	6	0	0
			計	4	12	300.0	0	6	0	6	0	0	0	4	6	4	6	0	0
	東京農業大学	アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム	2020	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	10	0
			計	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	10	0
合計				18	27	150.0	0	6	0	6	0	0	18	21	8	21	10	0	
タイプB	○京都大学、東京外国語大学	アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計				0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計				18	27	150.0	0	6	0	6	0	0	18	21	8	21	10	0	0

別表2:プログラムごとの受入学生数(令和2年度(2020年度)採択)

	大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)												
				目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数						
							(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		3ヶ月未満
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
タイプA①	宇都宮大学	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
タイプA①	山口大学	アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計			0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
タイプA①	北海道大学	アフリカと日本の懸け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム～ザンビア-北大の頭脳循環成果を基盤として～	2020	8	13	162.5	0	0	0	0	0	0	0	8	13	8	13	0	0
			計	8	13	162.5	0	0	0	0	0	0	0	8	13	8	13	0	0
タイプA①	○秋田大学、九州大学	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
タイプA①	広島大学	南北アフリカとの相互的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム	2020	8	13	162.5	0	0	0	0	0	0	0	8	13	8	13	0	0
			計	8	13	162.5	0	0	0	0	0	0	0	8	13	8	13	0	0
タイプA①	長崎大学	プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム	2020	4	12	300.0	0	0	0	0	0	0	0	4	12	4	12	0	0
			計	4	12	300.0	0	0	0	0	0	0	0	4	12	4	12	0	0
タイプA①	東京農業大学	アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム	2020	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	10	0
			計	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	10	0
	合計			30	38	126.7	0	0	0	0	0	0	30	38	20	38	10	0	
タイプB	○京都大学、東京外国語大学	アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム	2020	2	2	100.0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
			計	2	2	100.0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
	合計			2	2	100.0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	
総計				32	40	125.0	2	2	0	0	0	0	2	2	30	38	20	38	10